

令和7年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・最終)

音戸中学校区 校番 27 学校名 音戸小学校

a 学校教育目標	〈小中一貫教育目標〉 ふるさとを愛し、自律できる 児童生徒の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	〈ミッション〉(学校の使命) 知・徳・体の基礎的な力を身に付け、学校や地域に誇りと愛情をもち、感謝・貢献する児童を育成する。
	夢をもち 自ら動き たくましく 生活する 児童の育成		〈ビジョン〉(将来の学校像) 挨拶と笑顔があふれ、安全・安心な学校 児童が自信を持ち、目標に向けて挑戦する学校 地域・家庭とつながり、信頼される学校

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	本校では、中学校区で設定した資質・能力の育成を目指し、確かな学力では、ペア学習やICTの効果的な活用を図った考える授業づくり、計画的組織的な個別指導の取組、特別支援教育の視点を取り入れた学習環境づくりを推進することで、児童の主体的に学ぶ力、知識・技能及び表現力の向上が見られた。また、豊かな心では、あいさつの徹底、親切さんありがとうBOX、縦割り班活動や地域学習の充実を図ることで、児童の自己肯定感や地域への愛着心の向上が見られた。健やかな心身では、生活習慣改善カードの着実な取組、くれ・チャレンジマッチ・スタジアムへの組織的な参加、地域や家庭を巻き込む防災教育を推進することができ、一定の成果を挙げた。業務改善も教職員の意見を取り入れ、効果を上げた。以上を踏まえ、今年度も、昨年度より深化した取組を、全教職員で組織的に計画的に着実に実践し、確かな学力、豊かな心、健やかな心身、業務改善、安心安全な学校風土の醸成を図り、児童、教職員、保護者、地域が一体となって高まっていくことのできる教育実践を研究していく。
------------------------------	--

育成すべき資質・能力	「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「協働的に関わる力」「地域の一員として関わる力」
------------	--

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・2・(3) 年目)							自己評価					
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値		10月			2月		
							i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
★★ 確かな学力	(知) 「前より賢くなった! 友達と学び合うことが楽しい!」 といえる児童の育成	①児童が主体的に課題解決に取り組む授業づくりを推進する。	○考える授業づくりの推進	○学期ごとの評価テスト(国・算)の平均が40%以下の児童の割合	0		3	97	B			
		②表現力を育成する。	○課題発見・解決学習の授業研究の実施 ○ノートづくり・スピーチの取組	○課題発見・解決学習に関わる児童アンケート ○ノートづくり・スピーチに関する児童アンケート	85 80		96 87	112 108	A A			
		③個に応じた学習指導を工夫し、基礎学力の定着を図る。	○個に応じた課題別学習(キュビナの効果的な活用等)、特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり、組織的・計画的の実施	○個に応じた課題提示や選択に関する意識調査(教職員・児童)	85		92	108	A			
★★ 豊かな心	(徳) 「友達大好き・自分大好き・音戸大好き」な児童の育成	④自他のよさを認め合い、自尊感情、自己有用感を向上させる。	○挨拶の徹底(児童を主体とした「あいさつ名人」等の取組の実施) ○「親切さんありがとうBOX」の活用	○挨拶意識調査(児童・保護者・教職員) ○「親切さん」を自主的に推薦した児童の割合	80 70		88 60	110 86	A B			
		⑤いじめや暴力等を許さない学校環境づくりを推進する。	○いじめ撲滅キャンペーン中に、各委員会が主体的に考えた取組を確実に実行し、振り返りをする。	○「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか。」アンケート(児童)	100		100	100	A			
		⑥地域の人・もの・ことと関わり、活用し、感謝・貢献する意識を醸成する。	○生活科の学習や総合的な学習の時間の中で、実際に地域に関わる授業を学期に2回以上行い、まとめ、発信する。	○地域に関するアンケート(児童・教職員)	80		83	103	A			
★ 健やかな心身	(体) 「運動大好き・給食大好き・早寝早起き音戸っ子」の育成	⑦基本的な生活習慣の確立を図る。	○「げんきっすカード」による取組で、家庭でのメディアのルールを決め、児童・保護者の意識を高める。ルールを決める、守ることができない児童の支援を行う。	○メディアに関するアンケート「家庭でメディアのルールを決めている。」(児童・保護者)	80		96	120	A			
		⑧児童の運動意欲を高め、体力づくりを推進する。	○くれ・チャレンジマッチ・スタジアムで3種目以上のに取り組み、入賞を目指すことを通して児童の体力向上を図る。	○学期に1回チャレンジ週間を決め、記録を更新する。	85		83	98	B			
		⑨児童の防災意識を高める。	○「自分の命は自分で守る」防災授業(実践に結びつく授業を学期に1回) ○授業中以外で避難訓練を行い、防災意識や実践力を高める。	○学期に1回以上実践に結びつく授業を行い、防災安全ファイルに保存していく。 ○授業中以外で避難訓練を行う。防災に関するアンケート「自分が住む地域に起こりやすい災害について知っている。」「災害時に避難する場所や避難の仕方について知っている。」(児童)	80 100		100 95	125 95	A B			
業務改善	教職員が自らの意欲と能力を発揮し、健康でやりがいを持って働くことができる教育環境の整備	⑩児童と向き合う時間の確保	○行事の精選と簡略化、業務の見直し、会議時間の短縮を継続し、教職員が教材研究等に取り組む時間を確保する。	○児童と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合	80		92	115	A			
		⑪長時間労働の縮減	○成績処理期間の放課後時間の確保 ○週1回(水)の定時退校の徹底	○時間外勤務が月45時間以下の教職員の割合	85		61	72	C			

[k: 評価]

A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

令和7年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・最終)

音戸中学校区 校番27

学校名 音戸小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	<p>豊かな学力</p> <p>(知) 「前より賢くなった！友達と学び合うことが楽しい」といえる児童の育成</p>	<p>①児童が主体的に課題解決に取り組む授業づくりを進める。</p> <p>②表現力を育成する。</p> <p>③個に応じた学習指導を工夫し、基礎学力の定着を図る。</p>	<p>①昨年度より、評価テストの平均が40%以下の児童の割合が国語2%算数1%増加した。一方、算数科の学習用語や四則計算の基礎基本の定着が徹底できていない。授業において、情報収集に関しての肯定的回答は94%、話し合いに関する肯定的回答は97%。生活科・総合的な学習の時間を中心に、教員が課題解決のサイクルを意識しながら単元計画を構想している。</p> <p>②ノートの工夫に関しては86%の児童が肯定的回答をした。スピーチに関しては、言葉が増えたと感じる児童が87%、自信がもてるようになったと感じる児童が88%だった。学年ごとに「話す・聞く」の単元に身に付けたい力の掲示をし、教員・児童共に意識して取組ができた。</p> <p>③自分にあった課題を選んで学習を進めたという児童が94%、課題を提示できたと考える教員が90%。キュービナの活用方法を研修したりすることで、効果的な活用が増えたためだと考える。</p>	<p>①算数科の学習用語は、授業の始めに「パワーアップカード」の活用の継続をしたり、計算力向上については、ドリルタイムの中身について回数を見直しを行い、2学期からの運用を図ったりする。</p> <p>②ノート大賞を教員の研修に活用していく。また、ロイロノートに「自主勉強の仕方」というフォルダを学年ごとに作成し、児童の考えが分かるノートを取りためていくことで、児童も参考にできるようにしていく。そうすることで、ノート作りを通して考える力を高めていく。</p> <p>③計算の基礎となる四則計算定着を図るため、低学年は毎日給食時間に計算カードの確認を行う。</p>
**	<p>豊かな心</p> <p>(徳) 「友達大好き・自分大好き・音戸大好き」な児童の育成</p>	<p>④自他のよさを認め合い、自尊心、自己有用感を向上させる。</p> <p>⑤いじめや暴力等を許さない学校環境づくりを推進する。</p> <p>⑥地域の人・もの・ことと関わり、活用し、感謝・貢献する意識を醸成する。</p>	<p>④自分が挨拶ができていると自己評価している児童、教職員、保護者の平均の割合が88%だった。肯定的な数値は高いが、自分から進んで挨拶することができている児童が固定化されてきている様子が見られる。今学期は、児童主体の取組ができなかったことも課題である。また、「親切さんありがとうBOX」を活用して、認め合う活動を充実させていく取組は、主体的に親切な行動を紙に書いて推薦する児童の割合が60%だった。全体的な数は多いが、書く児童が固定化されてきている傾向が見られる。</p> <p>⑤「いじめは許されないことである」と考える児童は、100%だった。いじめ撲滅キャンペーンで各委員会による充実した取組が行われたことで、いじめについて児童が多く考える機会をもつことができた。</p> <p>⑥実際に地域と関わる授業の実施状況の調査、児童の地域への意識調査の結果を平均すると、83%だった。総合的な学習や生活科の学習を通して、地域の人やものに関わる機会を各学年で作ることができた。</p>	<p>④校内で挨拶名人を児童が見つけるなど、児童が主体になる取組を行っていく。挨拶を自分から進んで元気よく行う児童を教職員もより積極的に見つけ、認めていくことをより増やしていく。挨拶をしている児童が認められた実感できるようにしていきたい。また、「親切さんありがとうBOX」の活用では、学期の終わりに見つけた人の表彰を行い、「自分も探してみよう」という意識が児童の中で広がっていくようにしていく。</p> <p>⑤10月から11月に行われる第2回目のいじめ撲滅キャンペーンで、各委員会の取組が周知できるように、給食時間の放送などを活用して、それぞれの取組に多くの児童が参加したり興味をもったりするようにしていく。</p> <p>⑥地域に関する学習を引き続き行い、音戸町についてより児童が詳しくなれるように地域の方の関わりを意識しながら授業を行って</p>
*	<p>健やかな心身</p> <p>(体) 「運動大好き・給食大好き・早寝早起き音戸っ子」の育成</p>	<p>⑦基本的な生活習慣の確立を図る。</p> <p>⑧児童の運動意欲を高め、体力づくりを推進する。</p> <p>⑨児童の防災意識を高める。</p>	<p>⑦家族と一緒にメディアルールを決めることにより、しっかり守ることができている。メディアのきまりを家族と話し合っている児童96%保護者95%の達成値だった。週間中は担任がカードにコメントを書いたり、声かけをしたりすることで意識が高くなった。</p> <p>⑧1学期は運動会後、雨天が続いたり、気温が高くなったりして取り組み期間が短くなり、全学年取り組むことができなかった。</p> <p>⑨「自分の命は自分で守る」防災授業はすべて計画通り行い、防災安全ファイルに保存できている。起こりやすい災害や避難場所、避難方法について答えられなかった児童には再度指導を行った。</p>	<p>⑦健康課題がある児童には、生活改善できるよう支援し、引き続き取り組む。</p> <p>⑧2学期は早めにキャンペーン週間を設け、体育の授業で各学級が取り組めるようにする。また、年間を通じて3分間走や体育の授業前のサーキットに取り組む、児童の体力向上を目指す。</p> <p>⑨2学期は予告なしの避難訓練を休憩中に行い、避難訓練の反省や課題をロイロノートの「ヒヤリハット」フォルダに保存し共有することで児童の防災意識を高めたい。</p>
	<p>業務改善</p> <p>教職員が自らの意欲と能力を発揮し、健康でやりがいを持って働くことができる教育環境の整備</p>	<p>⑩児童と向き合う時間の確保</p> <p>⑪長時間労働の縮減</p>	<p>⑩92%の教職員が肯定的な回答をし、達成値は115%であり、昨年度より31ポイント上昇した。効果的であったのは、会議の精選を図り、月木以外は学級事務の時間を確保するようにしたことや、成績処理期間に授業時数をカットしたことなどが挙げられる。</p> <p>⑪時間外勤務が月45時間以下の職員の達成値が72%であり、昨年度より9ポイント下回った。職員数が少ないため、校務が主任等に集中したり、生徒指導対応で遅くなったりしてしまうことがあった。また、教職員によって働き方改革に対する温度差を感じる。</p>	<p>⑩今後も児童と向き合う時間を確保するために、会議等の精選や行事の見直しを図ることで、学級事務の時間の確保をしていく。また、一人で抱え込まず、教職員で気軽に話し合える関係づくりに努め、協力し合いながら児童の指導や校務分掌に取り組んでいく。</p> <p>⑪時間外勤務の実情に対して、教職員で話し合う場をもち、行事や会議の精選・簡略化について意見を出し合いながら改善に取り組む。その上で、教職員の働き方意識も高めていく。</p>

令和7年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・最終)

音戸中学校区 校番 27 学校名 呉市立音戸小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・中期・短期の経営目標の設定が明確で、指標も分かりやすく設定されています。 ・「主体的に課題解決に取り組む授業づくりを推進する」の指標から、どの児童の学力も伸ばしていこうとする熱意を感じます。だからこそ、目標値の設定の仕方を改善した方が分かりやすいと思います。 ・中間評価で既に達成している項目が多かったため、目標値をもう少し高くしてもよいかと感じました。
目標達成のための方策の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・知・徳・体の目標達成のための取組が認められます。 ・継続されていること、新しい取組をしていること共に、改善点を考えながら方策を立てられているのでとてもよいと思います。 ・業務改善に取り組む方策の実現を図っていきましょう。 ・「豊かな心」の方策で、挨拶やいじめの他にも、時間を守ることや迷惑行為等についても考えていったらよいのではと思いました。
自己評価の結果の分析の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力、豊かな心、健やかな心身等の取組内容と現状の数値を把握することができました。 ・できているところ、改善すべきところを丁寧に分析されています。 ・業務改善の評価をCからBに上げてください。 ・昨年度より時間外勤務が9ポイント下回ったと聞きました。社会問題となっている教員不足を解消していくためにも、働き方改革を意識し、改善していく必要があります。
今後の改善策(案)の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後どう改善するか、具体的に記載しており、分かりやすいです。 ・改善策が実現できるように今後も子供たちのために取り組んでいきましょう。期待しています。 ・いじめについて、マスコミ対応等の事案について教職員で研修したり、事案があったら記録に残し、次の学年に引き継いでいってほしいです。 ・学校全体で働き方改革を意識し、改善に取り組んでいきましょう。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・授業を参観させていただきました。低学年の児童は元気よく、中学年、高学年の児童は落ち着いて学習をしていました。 ・子供たちが伸び伸び学べるように工夫されていて感心しました。ありがとうございます。 ・先生方にはいつも感謝の気持ちでいっぱいです。 ・少しでも学級事務等の時間を減らし、児童と向き合う時間を確保していただきたいです。そのために、PTAとして、CSとして、できることを考えます。 ・児童に挨拶をしても返ってこないことがあり、どこまで指導をしたらよいかわかることがあります。自分から挨拶ができる児童を今後も目指し、取り組んでいってほしいです。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<p>○組織的・計画的に、放課後等の少人数指導や基礎基本タイムを継続する。特に、計算力向上を目指し、授業の導入に「パワーアップカード」を活用したり、給食準備中など空き時間にテストやドリル学習の直し、分からないところを補充学習する場を設けたりする。低学年の計算カード練習においても校内で体制で体制を組んで取り組む。児童の主体性の育成を目指し、課題解決に取り組む授業改善に教職員全員が取り組む。</p> <p>○挨拶の大切さを実感させ、自分から進んで挨拶できる児童を育成するために、挨拶の取組を工夫し実践していく。いじめ事案については、今後も教職員で情報を共有し、体制を組んで対応していくとともに、必要があれば迅速に他の関係機関と連携して取り組む。</p> <p>○くれチャレンジマッチ・スタジアムに積極的に取り組むとともに、外遊びを奨励する取組や体育科の授業等で体を動かす楽しさを体験させることで体力の向上を目指す。引き続き、地域と協働し、他教科とも関連させた防災教育を実施する。</p> <p>○企画委員会で、会議等の精選や教育活動の見直しを図り、児童と向き合う時間を確保する。教職員間で気軽に話し合える関係づくりに努め、協力し合いながら児童の指導や校務分掌に取り組む。働き方改革の意識を高め、時間外勤務の縮減に努める。</p>
--------------------	--